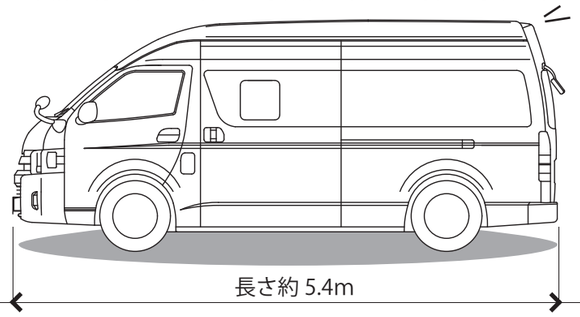
運行車両のタイプ

地域交通の運行車両のタイプは、運行ルートの道路幅員等で決まります

ワゴン型バス　乗客定員 13 人

本格運行地区　旭区 / 四季美台地区　戸塚区 / 小雀地区

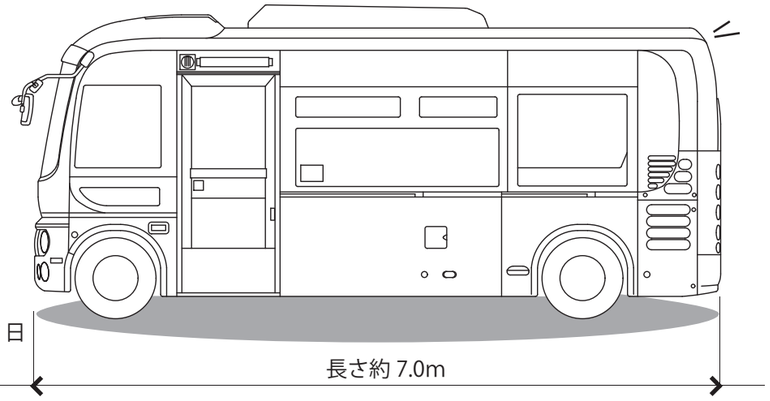


走行が可能な最少道路幅　4.3m程度

運行経費の目安（本市推計値）　約￥40,000/ 日
※８時間運行の場合

小型バス　乗客定員約 30 人

本格運行地区　金沢区 / 六浦地区　泉区 / 下和泉地区

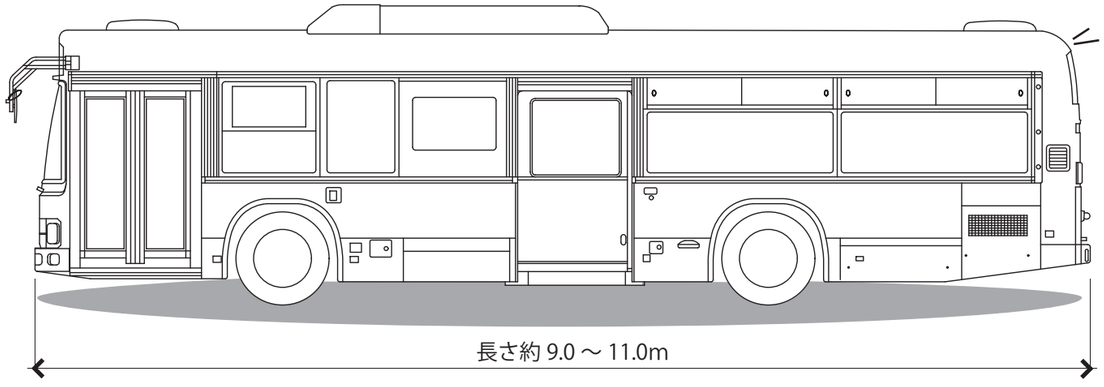


走行が可能な最少道路幅　5.1m程度

運行経費の目安（本市推計値）　約￥60,000/ 日
※８時間運行の場合

中・大型バス　乗客定員約 60 ～ 80 人

本格運行地区　青葉区 / 玉川学園台地区
緑区 / 青砥・北八朔地区　　戸塚区 / 上矢部地区
港南区 / 日野ヶ丘地区　　磯子区 / 磯子台団地地区



走行が可能な最少道路幅　5.5m程度　　運行経費の目安（本市推計値）　約￥60,000/ 日　※８時間運行の場合

横浜市道路局計画調整部企画課交通計画担当　平成 27 年 5 月発行

〒231-0017　横浜市中区港町 2 丁目 6 番地　電話（045）671-3800 / FAX（045）651-6527

【資料２】

横浜市役所は地域に適した交通手段の導入を支援します

バス利用者が減少する中、各バス事業者は運行効率やコスト縮減の改善を図りながらバス路線維持に努めています。しかしながら、これらの対策には限界もあり、バス事業者だけではバス路線の新設や増便等の要望に対して、十分に応えられません。一方で、高齢化の進展に伴い、地域公共交通の重要性が増しています。

横浜市地域交通サポート事業

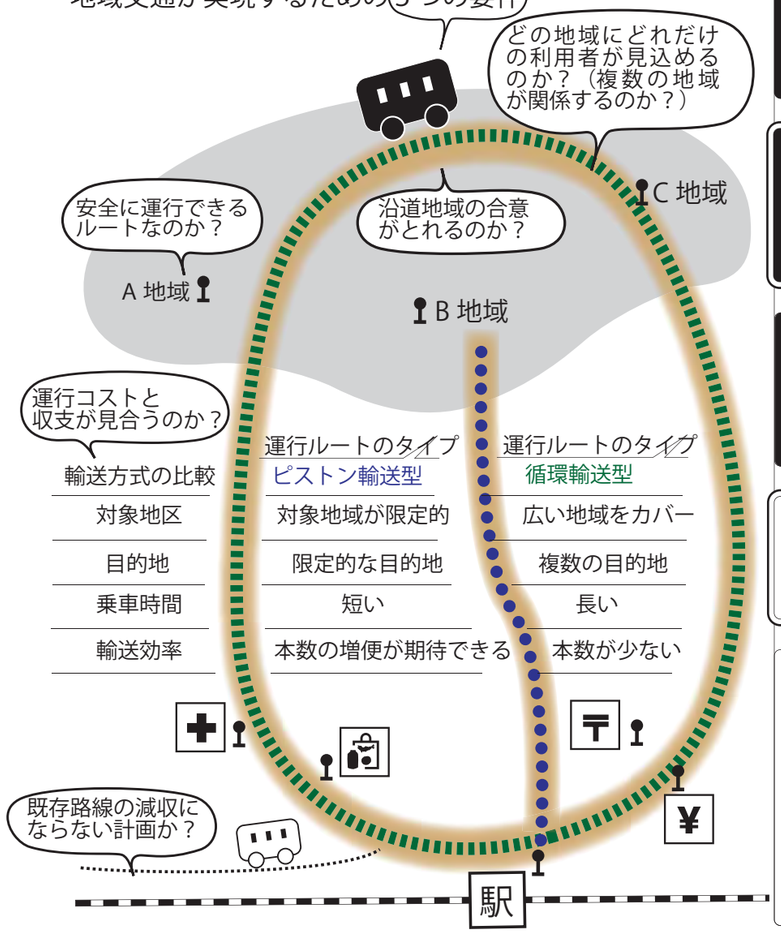
実現の基本的な考え方

1. 安全・安心な運行：国から乗合・乗用業務の許可を得た緑ナンバーを有する車両。
2. 地域の盛り上がり：多くの方が継続的に利用することで、安定した経営を行う。
3. 行政からの財政支援に頼らない自立した運行。

坂道が多い横浜市では、既存バス停から自宅までが遠い地域やバス路線がない交通空白地帯等で、高齢化により外出時の交通手段を確保することが困難な地域住民の方々が集まり、生活に密着した地域交通の導入に向けて取組むケースが多くあります。「横浜市地域交通サポート事業」は、このような地域の主体的な取組みがスムーズに進むように、地域交通の導入に至るまでの地域活動に対して様々な支援を行う事業です。

	地域の主体的な取組み	地域交通の運行実現までの道のり	横浜市からのサポート
準備	最寄りの区役所または横浜市道路局への相談	①相談 地域の公共交通の課題と解決の目的を共有する	・交通に関する問題（走行環境や事業者等）を整理し、活動の方向性をアドバイス ・他の地域の事例を紹介
スタート	継続的に話し合いができるグループを結成し、地域まちづくりグループ登録をする	②地域交通の検討組織をつくる 地域交通に関わる５人以上のメンバーを募る	・地域の組織運営等にアドバイスするまちづくりコーディネーター等の派遣や地域の活動経費の助成
第一関門	アンケートの実施と結果の周知	③お出かけ動向調査 地域の人の動き（移動手段や頻度、行先など）移動動向の実態と課題の把握	・アンケート（案）の作成 ・アンケートの集計と分析
検討の山場	運行ルートの沿道理解とバス停設置の地域合意を得る バス利用の機運を高める	④地域交通の運行計画を立案 採算性が確保できる運行計画の検討と関係者調整	・現地調査と運行計画（案）の立案 ・運行ルートやバス停位置等の確認（警察、土木事務所、運行事業者、市の立会い） ・走行試験
第二関門	アンケートの実施と結果の周知	⑤需要予測調査 運行計画（案）に対する需要予測アンケートから地域交通実現の可能性を判断する	・アンケート（案）の作成 ・アンケートの集計と分析
確認	時刻表の掲示とバス停の設置 実証運行の利用啓発	⑥実証運行 実際にバスを走らせて採算性を検証する	・運賃収入等と運行経費の差額を補てん ・実証運行結果の検証
本格運行	地域交通の開通式など	⑦本格運行 事業者が実現の可否の最終判断をする	・走行環境の整備を道路管理者と調整
バス利用の促進	利用促進等につながる啓発活動の継続 割引回数券 乗車タイアップ企画 快適なバス停周辺環境の維持 車両の地域仕様ラッピング etc...	⑧本格運行後 地域交通が安定的に運行できるよう、啓発活動やニーズに応じた運行計画の適宜見直しが必要です。その際には、既存バス路線も含めた地域全体の公共交通の利用啓発をすることが重要です。 地域ぐるみで地域交通を育んでいきましょう。	

地域交通が実現するための５つの要件



輸送方式の比較	運行ルートのタイプ ピストン輸送型	運行ルートのタイプ 循環輸送型
対象地区	対象地域が限定的	広い地域をカバー
目的地	限定的な目的地	複数の目的地
乗車時間	短い	長い
輸送効率	本数の増便が期待できる	本数が少ない

地域交通サポート事業の Q&A はホームページもご覧ください

地域交通サポート　検索

横浜市地域交通サポート事業　～よくある質問と答え～
http://www.city.yokohama.lg.jp/doro/plan/chiiki/qa.html

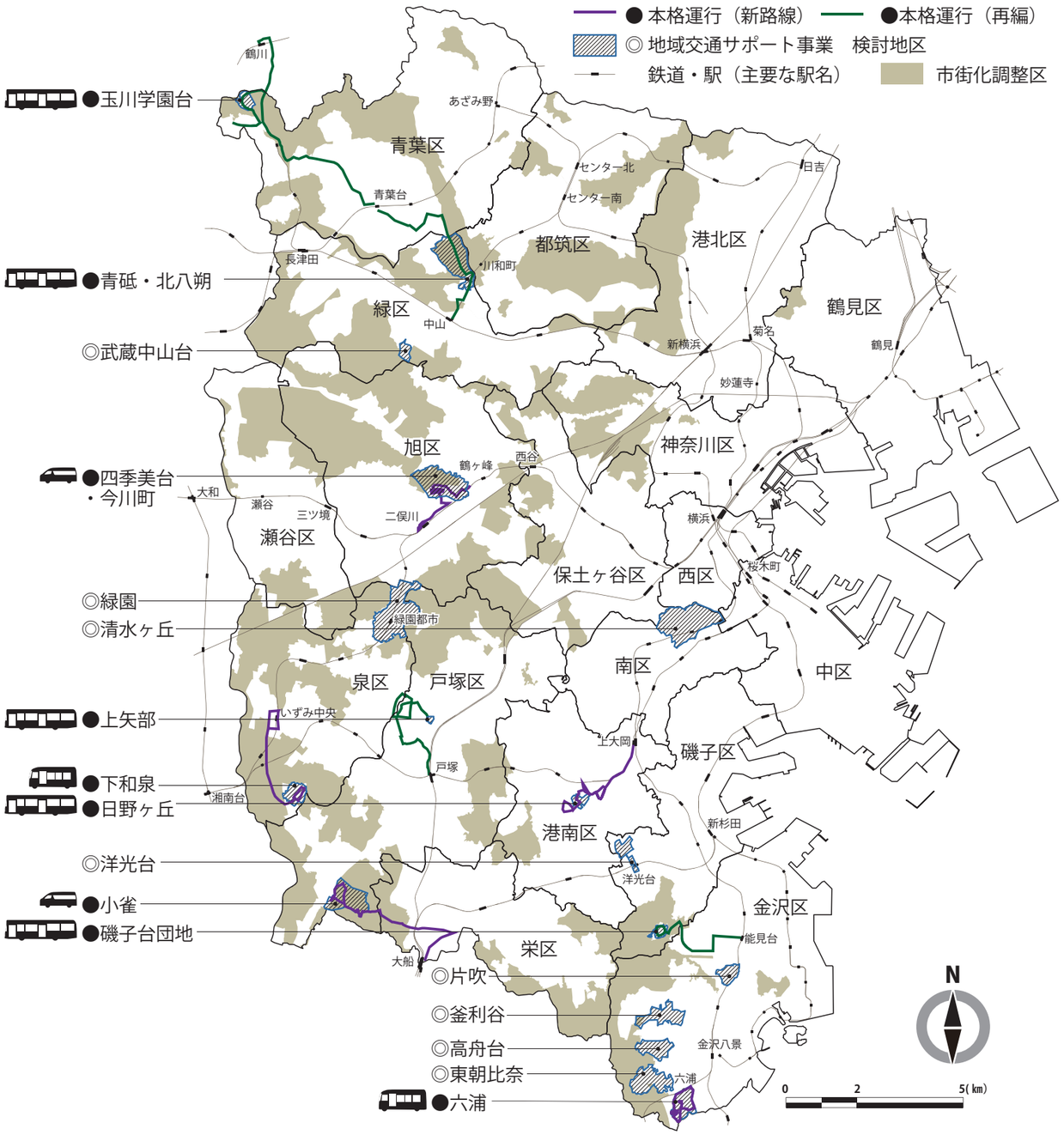
横浜市地域交通サポート事業
横浜市道路局計画調整部企画課交通計画担当
平成 27 年 5 月発行
〒231-0017　横浜市中区港町 2 丁目 6 番地
電話（045）671-3800 / FAX（045）651-6527

本格運行の事例紹介

平成 19 年から平成 27 年 3 月末までのこれまでに、24 地区で地域交通サポート事業の検討が行われています。そのうち本格運行が実現したのは 9 地区、現在も検討が続いてる地区は 8 地区です。

地域交通サポート　検索

本格運行の詳細は
ホームページもご覧ください
横浜市地域交通サポート事業
http://www.city.yokohama.lg.jp/doro/plan/chiiki/



横浜市地域交通サポート事業　事例紹介　運行タイプ：再編 / 新路線　中型バス

地　区　名：**港南区 日野ヶ丘 地区 日野ヶ丘町内会交通問題研究会**

グループ登録：平成 19 年 10 月　本格運行開始時期：平成 24 年 4 月　検討期間：約 4 年 6 ヵ月

地区の状況：約 1,000 世帯　約 2,500 人が居住　丘陵上の戸建住宅と集合住宅　市営地下鉄ブルーライン 港南中央駅、上永谷駅から約 1 ㎞

Route 地域の取組み概要

昭和 40 年代に開発された当地区は、高台にありバス停まで遠く、高齢化とともに益々生活に支障をきたすようになりました。そこで、高齢者支援・福祉の向上を目指し「日野ケ丘町内会交通問題研究会」を立ち上げ、バス誘致の検討を始めました。

研究会の目標はバスを誘致することではありますが、単に便利にするというだけではなく、この活動の成果が、多くの地域居住者の日常生活・福祉の向上に資するものでなければならないこと。また、静かな住宅地域をバスが走ることになるわけですから、バスを必要としない方々からも合意を得ることが大前提となりました。そこで、いろいろな角度から住民の意見を求め、まず先に問題点を明らかにし課題解決に取り組みました。

インタビューに応じて頂いた交通問題研究会の方々

課題が概ね整理できた段階で、バス事業者の採算性はもとより、バスルートの的確性・合理性・バス停留所位置との整合性などバス事業者をはじめ、土木事務所・警察署などから意見を伺いました。全体構想を明らかにした上で沿線にあたる住民に、利用頻度・要件・時間帯などをアンケート調査した結果、採算性の見通しは立ち、しかも利用要件・時間帯などの分析から継続性が維持できるものであり、福祉向上にも寄与できるとの確信を得ました。直ちに実証運行を行い、続けて本格運行に入り既に 3 年を経過しました。事業者目標も達成し、無事故の運行は継続され、地域からは今も喜びの声が絶えません。

住民目線でのバス事業者の誠意ある対応は、住民にとって「わたくしたちのバス」と言った親しみを持てるものになっていることは喜ばしいことです。

運行概要：

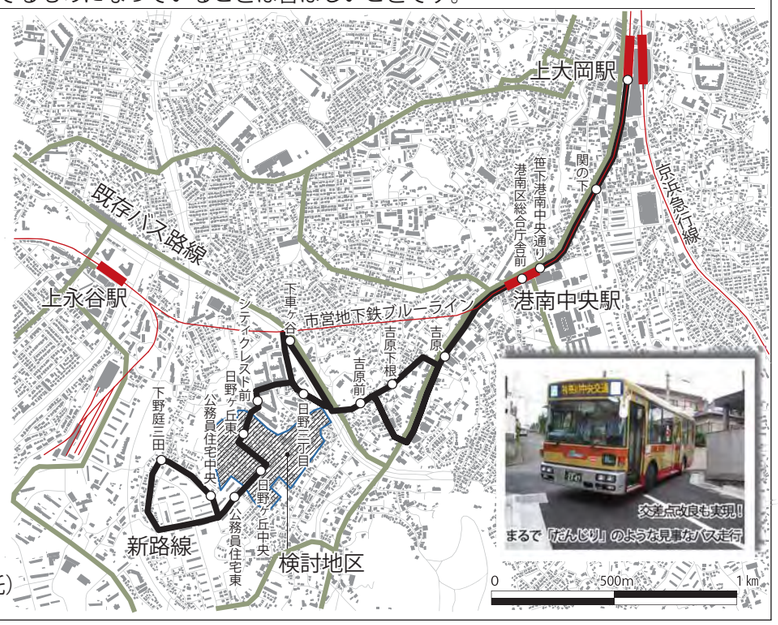
運行ルート
上大岡駅～日野ヶ丘地区～上大岡駅
路線延長約 7.4 ㎞（循環路線）

運行時間
平日・土曜 AM6 時台～ PM10 時台
日曜・祝日 AM6 時台～ PM 9 時台

運行本数　（平成 26 年 4 月時点）
平日 27 本 / 日　土曜 26 本 / 日
日曜・祝日　18 本 / 日

運賃（現金）※IC も使用可
大人 220 円　小人 110 円

運行事業者
神奈川中央交通株式会社
（株式会社横浜神奈交バスへ運行委託）



横浜市地域交通サポート事業　事例紹介　運行タイプ：**再編** / 新路線　　**大型バス**

地　区　名：**戸塚区 上矢部 地区 ラムーナ交通サポート検討プロジェクト**

グループ登録：平成 19 年 11 月　　本格運行開始時期：平成 21 年 6 月　　検討期間：約 1 年 7 ヶ月

地区の状況：約 600 世帯　約 2,500 人が居住　工業団地跡地の大規模マンション　　JR 戸塚駅から約 2 ㎞

地域の取組み概要

マンション開発に合わせて新設されたバス路線は、当初、渋滞の激しい道路を運行していましたが、マンション住民からの路線増便要望を契機に、地区全体のバス路線の再編を近隣自治会町内会も含めて協議しました。この再編は「実証運行」を行わず、他路線の利用状況も含めた綿密な需要予測（アンケート）調査を行い「本格運行」に至っています。

成功のポイントと再編の効果

既存バス路線を再編（増便やルート変更等）をすることは、バス利用者数の増加が見込めないと実現が非常に困難ですが、本地区では、地区内の他路線も含めた見直しを行うことで、「利用者の利便性の向上」と「事業者の効率・採算性の向上」が両立することができたのが、再編成功の大きな要因です。また、再編後、影響を受ける近隣自治会町内会への周知を丁寧に行うことで、理解を得ることができました。

①増便により、地区全体のバス利用者が 2,200 人 / 日から 2,300 人 / 日へと増加

②増便により、ピーク時の乗車混雑が緩和

③朝のラッシュ時の定時性と速達性が確保

運行概要：

運行ルート

上矢部循環線戸塚駅行　約 4.1 ㎞
ラムーナ線　戸塚駅行　約 3.6 ㎞

運行時間

平日　AM 5 時台～ PM11 時台
土日祝日　AM 6 時台～ PM10 時台

運行本数

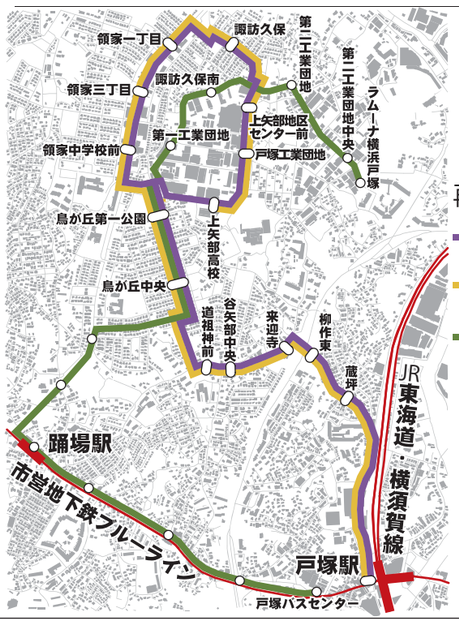
平日　35 便 / 日
土日祝日　21 便 / 日
（平成 21 年 6 月時点）

運賃（現金・対距離制）※IC も使用可

大人 200 円　小人 100 円
（戸塚駅からラムーナ戸塚横浜まで）

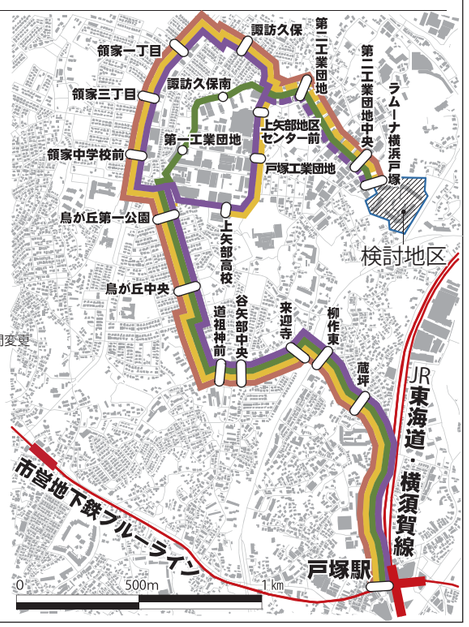
運行事業者

神奈川中央交通株式会社



再編前 ➡ 再編後

- 戸 90 → 戸 90、戸 98 新設
- 戸 91 → 戸 91、戸 99 新設
- 戸 96 → 戸 96 一部区間変更、戸 97 新設



横浜市地域交通サポート事業　事例紹介　運行タイプ：再編 / **新路線**　　ワゴン型バス

地　区　名：**旭区 四季美台・今川町 地区 コミュニティバス「四季めぐり号」運行委員会**

グループ登録：平成 20 年 6 月　　本格運行開始時期：平成 25 年 4 月　　検討期間：約 4 年 9 ヵ月

地区の状況：約 2,000 世帯　約 6,000 人が居住　丘陵上の戸建住宅地　相模鉄道二俣川・鶴ヶ峰駅から約 1 ～ 2 ㎞

地域の取組み概要

地区内の道路幅員が 4 m程度で、最寄駅まで徒歩 15 分以上かかる本地区では、特に帰宅時の登り坂に苦労する高齢者が多いことが気がかりで、連合町内会で本事業に取組むことになりました。

道路幅員が狭いため、バスではなく、狭い道路を走行可能なワゴン型車両で本格運行に至りました。現在は、回数券導入や車内企画展の開催、運行ルート・時刻表等の改善など、利用者数増加に向けて地域と事業者が参加する運行委員会で検討が続けられています。

インタビューに応じて頂いた運行委員会の方々

地域交通サポート事業に取り組むきっかけは、「自家用車を手放したらいつか私達も外出に困るのでは？」という、気づきでした。「実証運行」を行い、路線継続の採算性を検証できることが本事業の興味深いところです。実証運行中のニーズ調査を踏まえて「フリー降車 OK」としたところ、利用者が約 60 人 / 日から約 100 人 / 日となり、採算性の目途が立ち、本格運行へと至りました。本格運行へ移行した際に、事業者、地域、横浜市の間で三者協定を結び、常に採算性を意識した運行を心がけています。

運行が定着した今では「地域自慢のコミュニティバス」となり、他の地方自治体からの視察も受けるようになりました。バス路線でつながった近隣自治会町内会とは、交流の機会も増え、運行委員会や地域の行事などで色々な話ができるようになったことも嬉しい効果の一つです。

現在の目標は、十分な採算性を確保できる 130 人 / 日の達成です。そのために、運行ルートの見直しや車内展覧会、体験乗車モニター会などを企画して、更なる利用者の増加に取組んでいます。

四季めぐり号の動画へアクセス

https://www.youtu.be/hSK2IwPjRyw

運行概要：

運行ルート

二俣川駅～本村町～四季美台～今川町～鶴ヶ峰駅付近
二俣川駅方面行　約 3.7 ㎞
鶴ヶ峰駅方面行　約 4.3 ㎞

運行時間

平日 AM 9 時台～ PM6 時台
（土日祝日は運休）

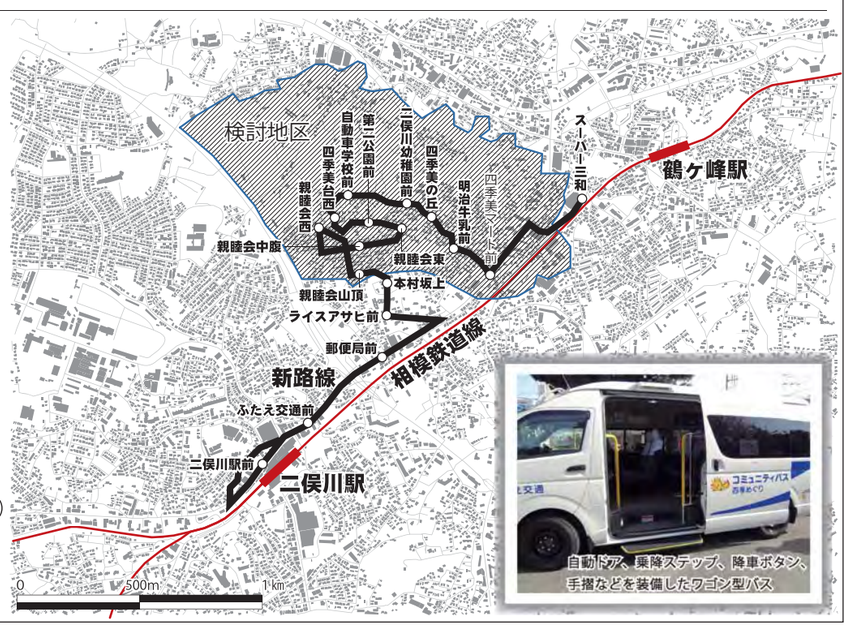
運行本数　21 本 / 日
（平成 26 年 9 月時点）

運賃（現金）

300 円（未就学児は無料）
敬老特別乗車証の利用不可
回数券 3,000 円（11 枚つづり）

運行事業者

二重交通株式会社



自動ドア、乗降ステップ、降車ボタン、手摺などを装備したワゴン型バス